2025/07/01

〇〇保育園川遊び計画案

作成者　堀岡正昭

日程　令和7年7月〇日（水）

時間　９時４５分～１２時

場所　陵南公園脇南浅川（猛暑の場合など、裏高尾に変更もあり）

対象　５歳児（２０名）※当日の人数など要確認。報告。

引率　堀岡、〇〇、○○、

持ち物

子ども　ラップタオル、水筒、アクアシューズ、帽子

大人　タオル、水筒、アクアシューズ、帽子、着替えなど

園としての装備

ライフジャケット、救急セット、ウォーターボトル（中身は水道水）、名簿、携帯電話、

観察ケースやたも網、ハンディ図鑑など活動に使える物

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 活動内容 | 注意点、配慮、など |
| 9:15 | トイレ | 混み合わないよう、転倒や衝突などの怪我に注意 |
|  | 着替え | 着替える場所を明確に伝え、衣服の入り混じりやプライバシーに配慮。 |
|  | 集合 | 持ち物、アクアシューズ、水筒の確認。 |
| 9:40 | 移動 | 階段での転倒や衝突など注意。職員配置。 |
| 9:45 | 出発 | 人数確認と健康状態、表情などの確認。 |
|  | バス車中 | 点呼、挨拶。表情など確認。歌やかけ声など、同一動作、同一呼吸で気分を盛り上げ、活動に期待させる。周辺の話題や過去の記憶など、活動につながる話題、期待される育ちにつながる話題があれば広げる。「もう少しで着くよ」など、見通しを持たせる。 |
| 10:15 | 駐車場着 | 挨拶。降りる時の注意点。子どもが全員降りたか確認。駐車場の危険がないか周囲の確認。 |
|  | 移動開始 | 点呼。２人組。車に注意。 |
|  | 現地、準備体操をする場所に着。 | 周囲の人に挨拶。荷物を置いて、準備体操。ライフジャケット着用。（方法、注意点、点検。） |
|  | 川原に移動 | 先生たちは子どもの前に。階段での転倒、押さないよう、注意。 |
|  | 川原に荷物を置いて集合 | 堀岡の話を聞く。１．フィールドの制限（どこからどこまでか）２．禁止行為（石を投げないこと、アクアシューズは川の中で脱がないこと。網は振り回さないこと、など） |
| 10:30 | 活動開始 | 先生たちは子どもたちの前に。先に入水。遊びのモデルとなる。危険な行為、場所がないか監視。他の先生方とアイコンタクト、ジェスチャー、ボディサインなどで連携、コミュニケーション。怪我等の場合、情報を共有し、１人が対応。即座に監視体制を整える。（活動場所の制限や職員配置を変えるために動く。）周辺の様子（不審者、撮影、抗議など、子どもたちに危険がないか、また活動を理解してもらうためにも挨拶など） |
|  | 活動 | 見守り子どもの近くで、時折顔を上げて、周囲の状況、他の先生の様子、子どもたちの様子を把握する。 |
|  | 休憩 | 子どもたちの様子、天候等、総合的に判断し、休憩を挟む。（活動時間１０分～１５分を目安）水分補給、人数点呼、表情や水分を摂る様子など観察し、健康状態を確認する。 |
|  | 活動 | 見守り子どもの近くで、時折顔を上げて、周囲の状況、他の先生の様子、子どもたちの様子を把握する。 |
|  | 活動終了 | 終了の合図。子どもの確認。水分補給、人数点呼、表情や水分を摂る様子など観察し、健康状態を確認する。 |
| 11:20 | バスに移動 | 忘れ物がないか確認。転倒などないよう注意。 |
|  |  | ライフジャケットを脱いで、回収。タオルを羽織って、乗車。 |
|  |  | 座った子から水分補給。 |
| 11:30 | 出発 | 顔色や表情など、健康チェック。 |
| 12:00 | 到着 | 人数確認。忘れ物、タオルの引きずりなどないか、転倒に注意。 |
|  | お部屋で着替え | ・アクアシューズはどうするか、どこに置くかの指示。・着替える場所の明示。プライバシーに配慮。・脱いだ衣服の始末などの指導。・衣類が入り混じらないよう注意。その後、トイレ、手洗いなどの指導 |

川遊びに限らず、野外での活動は、周囲の人に挨拶をしておくことが、何かあった場合、子どもを守る助けになると言われています。

子どもの救助は出来なくても、救急車の到着支援や「あそこに子どもがいたよ」など、情報を教えてもらえることもあります。

周辺にいる大人全員で子どもを守るということにつながります。

もちろん、そうならないようあらかじめ、綿密に計画し、具体的にイメージしておくことが必要です。

事前にイメージトレーニングして体験しておくことで、連絡漏れや忘れ物を減らすことが出来ます。

活動中は、子どもの近くで遊びの様子を観察するようにしてください。

その際に、目の前の子どもだけでなく、半径２ｍの子どもたち、周りの様子にも目を配るようにし、適時、顔を上げて周りを見る、他の先生方の場所、動きに気を配るようにしましょう。

また、全体のバランスを気にし、自分の周囲に子どもが２，３人しかいなかったら、大勢見て、大変な状況にある先生が他にもいるかもしれないという思いを馳せるようにしましょう。

大人全員で全員の子どもの安全を守るということは、大人全員でまるであたかも大きな一つの器官として、意識と情報を共有し、安全を守るという強い意思が必要です。

この大変な自然の中での保育の先にあるもの、その先にある未来は、子どもたちのより良い育ち、成長と、先生方の専門性の向上です。

共にがんばり、いい保育をしていきましょう。

よろしくお願いします。